

【審議事項3】

**炎症性腸疾患患者診療サポート事業
(金沢大学 消化器内科 岡藤助教)**

炎症性腸疾患患者診療サポート事業へのいしかわ診療情報共有ネットワーク利用企画書

標記について提案いたします。ご検討の程、よろしくお願い申し上げます。

背景： 企画背景、事業目的、課題など

【企画背景】炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease：IBD）は、潰瘍性大腸炎およびクローン病を含む慢性炎症性疾患であり、近年、本邦では患者数が増加の一途をたどっている。IBD患者は長期間にわたり専門的診療を必要とし、生物学的製剤やJAK阻害薬、IL-23阻害薬などのAdvanced Therapyの普及に伴い、診療はますます高度化・複雑化している。石川県においては、金沢大学附属病院がIBD診療の中心的役割を担い、県内の中核病院および地域医療機関と連携しながら診療を行っている。しかし、IBDは慢性疾患であるため、患者は地域医療機関で長期間フォローされることも多く、病勢増悪時には速やかな専門施設への紹介が必要となる。一方で、紹介・逆紹介時の診療情報共有は紹介状や紙媒体に依存する場面が多く、検査結果や内視鏡所見などの情報共有に時間を要することがある。現在、いしかわ診療情報共有ネットワーク（ID-Link）は県内の医療機関間で診療情報共有基盤として運用されているが、IBD患者の診療連携を目的として活用された実績は限られている。さらに、当院にIDを有しない参加患者情報は確認できない問題点がある。

【事業目的】本事業では、いしかわ診療情報共有ネットワーク（ID-Link）を活用し、金沢大学附属病院と県内中核病院および地域医療機関との間でIBD患者の診療情報を安全かつ円滑に共有する体制を構築する。当院にIDを有しない参加患者に関しては、サポート事業用の閲覧専用医療機関「金沢大学附属病院IBD相談センター」を設置し、専門医療機関と相談センターとの間での情報共有を行う予定である。これにより、紹介・逆紹介の円滑化、Advanced Therapy導入時の迅速な情報共有、内視鏡画像・検査データの共有、地域医療機関との共同診療 IBD患者の継続的フォローアップを実現し、石川県におけるIBD診療の均てん化および医療の質向上を目指す。

【課題】現在のIBD診療では、紹介・逆紹介時の診療情報共有が十分ではない、内視鏡画像や病理所見の共有に時間を要する、Advanced Therapy導入・変更時の情報共有体制が施設間で異なる、長期フォローアップ患者の病勢変化を迅速に把握しにくい、地域医療機関と大学病院との共同診療体制が十分に整備されていない、などの課題が存在する。ID-Linkを活用した診療情報共有により、これらの課題の改善を図る。

内容：	企画概要、実施方法、運用案など
1. 参加施設において、本事業に関する掲示を行う。 2. 対象患者に対し、本事業の目的およびID-Linkを利用した診療情報共有について説明し、口頭同意を取得する。 3. 同意取得後、電子カルテに同意取得日時、説明内容、説明者（同意取得者）の記録を行う。 【記載例】 いしかわ診療情報共有ネットワークを利用し、金沢大学附属病院消化器内科と診療情報を共有することについて説明し、同意を得た。 4. いしかわ診療情報共有ネットワーク確認書に必要情報を記入し、金沢大学附属病院IBD相談センターにFAX送付等にて紐付けを依頼する。金沢大学附属病院IBD相談センターは、紐付け後にFAX送付等にて対象医療機関に完了報告する。尚、対象医療機関の同意が得られた場合には、対象医療機関で紐付けを行うこともできる。その際は、紐付け後、FAX送付等にて金沢大学附属病院IBD相談センターに完了報告を行う。金沢大学附属病院IBD相談センターからの診療情報閲覧は同院医師3名（岡藤啓史、鷹取元、木村真規子）に限定する。	
対象：	対象者（職種）、参加人数、参加機関、利用条件など
目標相談患者数：50症例 対象職種：医師、看護師、薬剤師、管理栄養士 参加機関：金沢大学附属病院、石川県内IBD診療関連施設 利用条件：情報セキュリティ研修を受講していること、ID-Link利用登録を完了していること	
効果：	期待される効果、実証事業後の展開など
いしかわ診療情報共有ネットワーク（ID-Link）を活用することで、IBD患者の紹介・逆紹介時に診療情報を迅速かつ正確に共有できるようになり、地域医療機関と大学病院との共同診療が促進される。これにより、Advanced Therapy導入患者を含めた長期フォローアップの効率化や、病勢増悪時の適切な専門医療機関への紹介が可能となり、IBD診療の質の向上が期待される。また、本事業で構築した診療情報共有体制は、石川県におけるIBD診療連携の基盤となるとともに、今後の北陸医療圏モデルのデジタル連携基盤としての活用が期待される。	
実証期間：	令和8年7月 ～ 令和11年6月
報告形式：	「炎症性腸疾患患者診療サポート事業へのいしかわ診療情報共有ネットワーク利用報告書」を年度末にいしかわ診療情報共有ネットワーク運営委員会に報告する。また何らかのセキュリティインシデントが発生した場合も運営委員会へ直ちに報告する。

炎症性腸疾患患者診療サポート事業への いしかわ診療情報共有ネットワーク利用

金沢大学附属病院 消化器内科

岡藤啓史

背景

炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease：IBD）は、患者数が増加の一途をたどっている。

IBD患者は長期間にわたり専門的診療を必要とし、生物学的製剤やJAK阻害薬、IL-23阻害薬などのAdvanced Therapyの普及に伴い、診療はますます高度化・複雑化している。

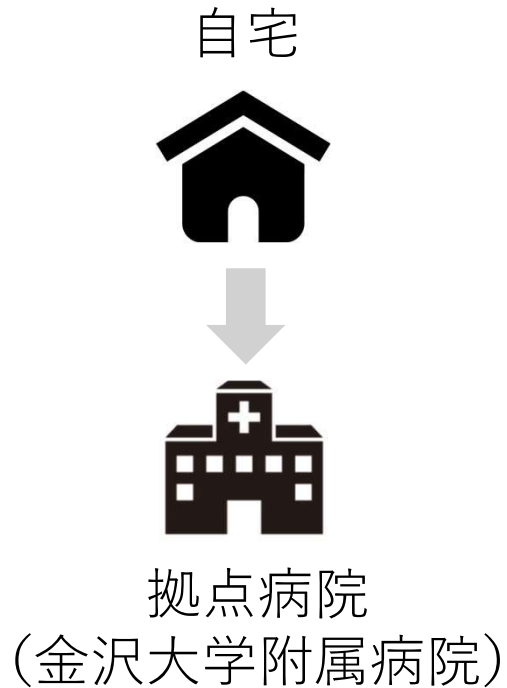
石川県においては、金沢大学附属病院がIBD診療の中心的役割を担い、県内の中核病院および地域医療機関と連携しながら診療を行っている。

背景

IBD診療において、診断に困る症例、治療方針に困る症例が存在
専門施設に相談、紹介したいが、困難な状況がある

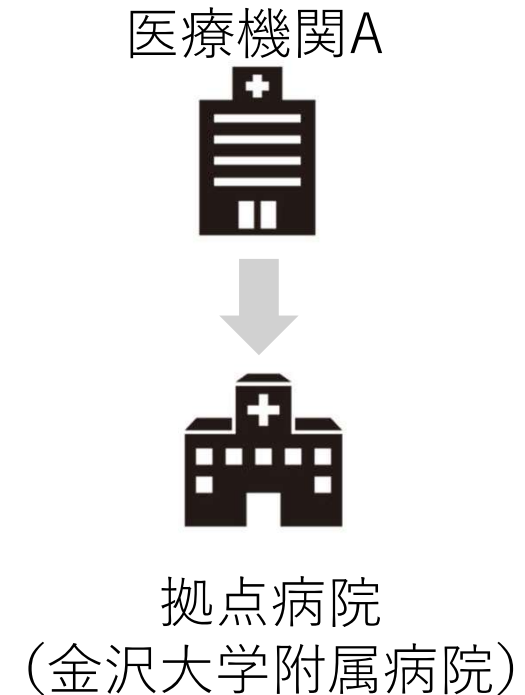
物理的距離と心理的距離

物理的距離



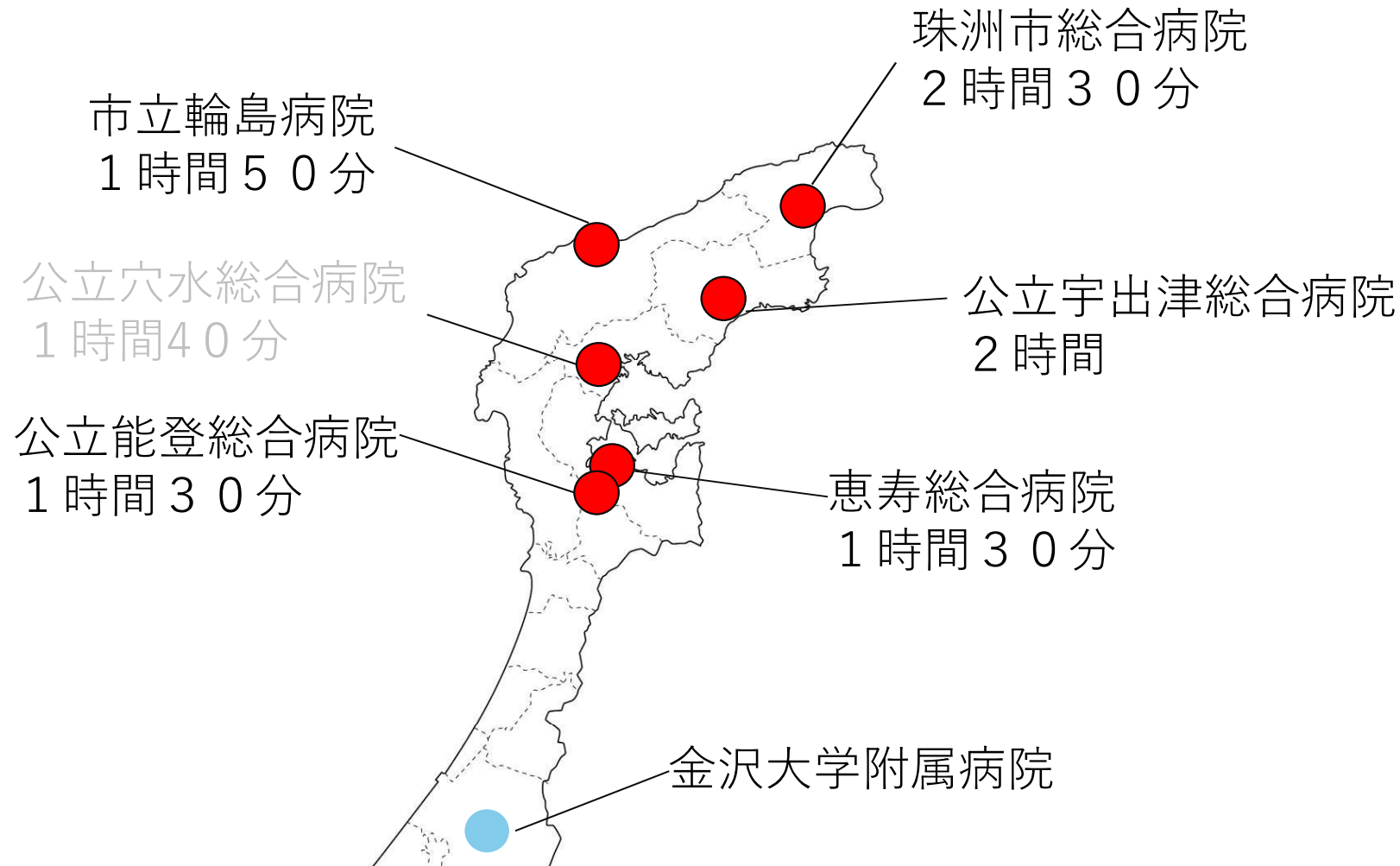
拠点病院が遠方であり通院が困難

心理的距離



相談事項(診断、治療方針)があるが
紹介に迷う症例

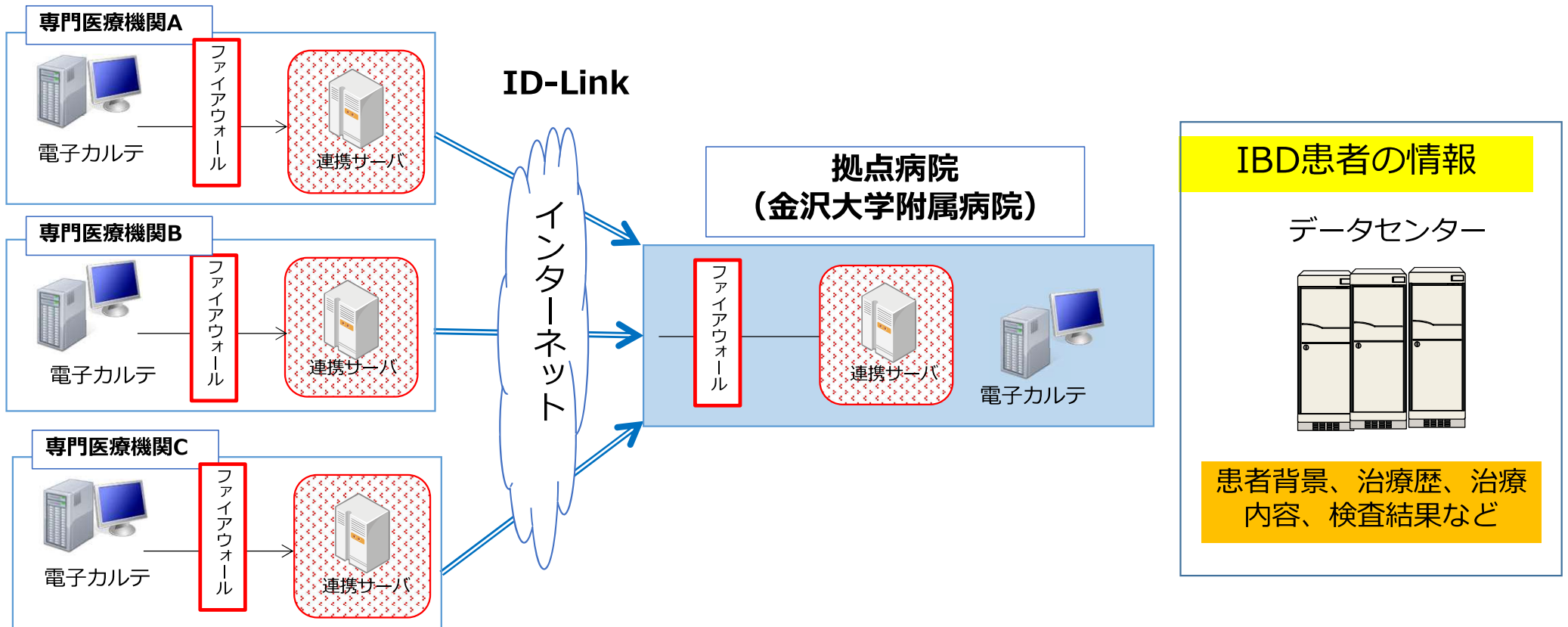
金沢大学附属病院までの物理的距離(能登を中心に)



事業の目的

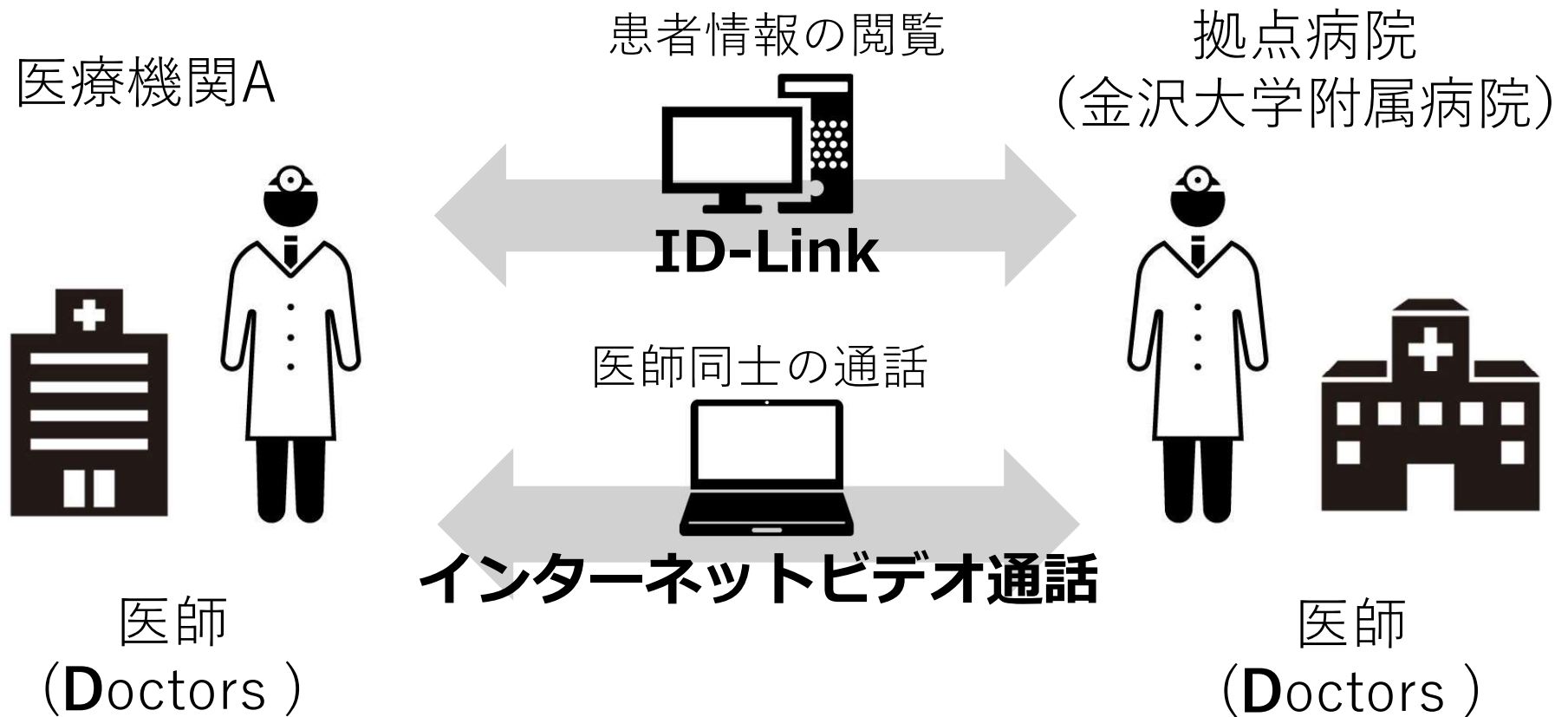
いしかわ診療情報共有ネットワーク（ID-Link）を活用し、
金沢大学附属病院と県内中核病院および地域医療機関との間で
IBD患者の診療情報を安全かつ円滑に共有する体制を構築する。

ID-LinkのIBD診療連携への運用



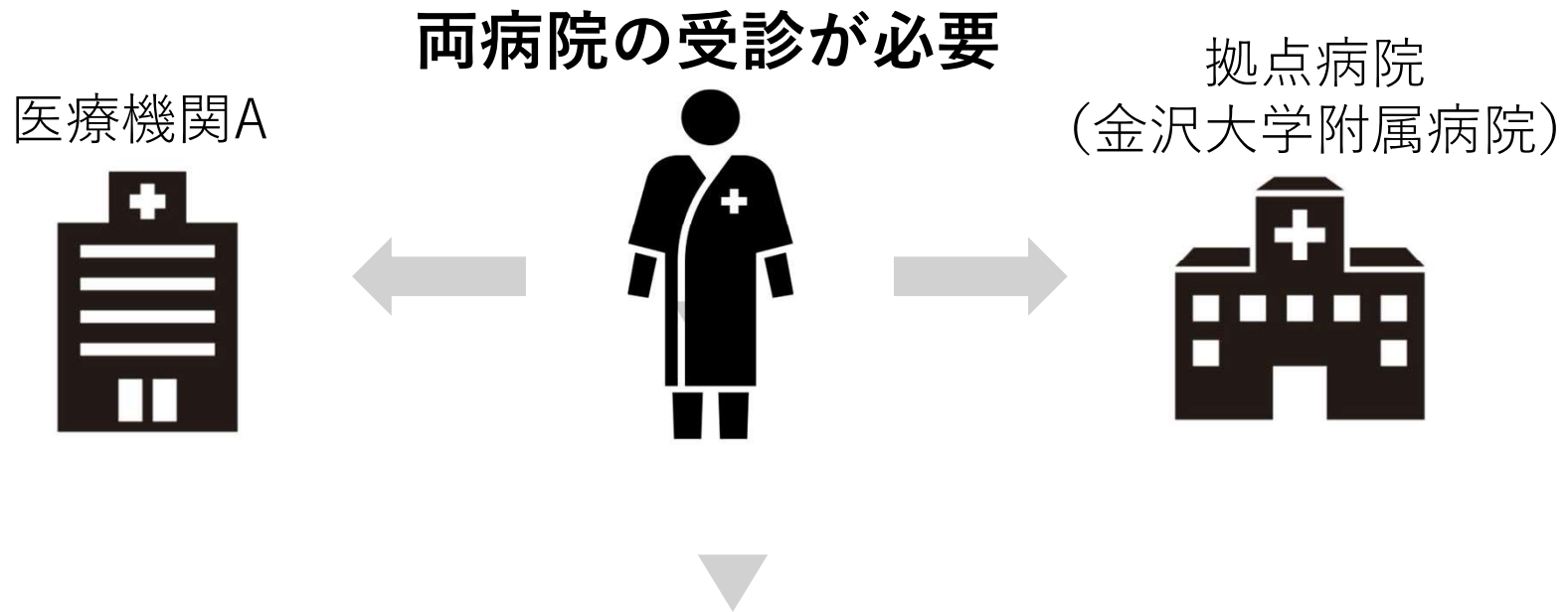
- 診療情報の紐付けには、患者同意が必要
- 紐付けしたい医療機関双方のID（受診歴）が必要

本モデルの診療体制(D to D)



金沢大学附属病院に受診歴がない患者

金沢大学附属病院（拠点病院）の受診歴がない患者は、ID-Linkを用いたの紐付けが困難。



拠点病院にIDがない患者も、診療情報共有できるようにする対策が必要。

閲覧専用の仮想医療機関「金沢大学附属病院IBD相談センター」

- 金沢大学附属病院内に、閲覧専用の仮想医療機関「**金沢大学附属病院IBD相談センター**」を設置。
- 「金沢大学附属病院IBD相談センター」と各専門医療機関の間で、ID-Linkの紐付けを行う。
- 仮想医療機関による診療情報共有は、COVID-19感染者の宿泊療養施設ー専門医療機関間、金沢大学附属病院肝疾患相談センターでの実績あり。
- 対象は、石川県IBD診療連携に参加同意された方のみとする。

金沢大学附属病院 肝疾患相談センターの例

The screenshot shows the ID-Link web interface. On the left is a sidebar with navigation links: ログオフ, 患者情報検索, 個人情報検索, カレンダー表示, 文書一覧, 画像・波形一覧, ファイル一覧, and 期間一覧. The main content area has a breadcrumb trail: Home > 連携患者選択 > 連携登録一覧. Below this is a red message: 患者選択が必要です (Person). There is a text input field for 患者 ID. The section 連携登録一覧 shows a list of linked facilities. The facility 金沢大学附属病院肝疾患相談センター is highlighted with a red circle. Below this, a message states: あなたの施設は、以下の施設と連携しています。 A table lists the linked facilities:

連携先施設名
国家公務員共済組合連合会 北陸病院 (金沢市 泉が丘)
国民健康保険 小松市民病院 (小松市 向本折町木)
医療法人社団さくら会 森田病院 (小松市 園町木)
国民健康保険能美市立病院 (能美市 大浜町ノ)
小松ソフィア病院 (小松市 沖周辺土地区画整理事業地内 仮地番)

実施方法

1. 参加施設において、本事業に関する掲示を行う。
2. 対象患者に対し、本事業の目的およびID-Linkを利用した診療情報共有について説明し、口頭同意を取得する。
3. 同意取得後、電子カルテに同意取得日時、説明内容、説明者（同意取得者）の記録を行う。

【記載例】

いしかわ診療情報共有ネットワークを利用し、金沢大学附属病院消化器内科と診療情報を共有することについて説明し、同意を得た。

実施方法

4. いしかわ診療情報共有ネットワーク確認書に必要情報を記入し、金沢大学附属病院IBD相談センターにFAX送付等にて紐付けを依頼する。

金沢大学附属病院IBD相談センターは、紐付け後にFAX送付等にて対象医療機関に完了報告する。

尚、対象医療機関の同意が得られた場合には、対象医療機関で紐付けを行うこともできる。その際は、紐付け後、FAX送付等にて金沢大学附属病院IBD相談センターに完了報告を行う。

金沢大学附属病院IBD相談センターからの診療情報閲覧は同院医師3名（岡藤啓史、鷹取元、木村真規子）に限定する。

対象

目標相談患者数：50症例

実証期間：令和8年7月 ～ 令和11年6月

対象職種：医師、看護師、薬剤師、管理栄養士

参加機関：金沢大学附属病院、石川県内IBD診療関連施設

利用条件：情報セキュリティ研修を受講していること

ID-Link利用登録を完了していること

ID-LinkをIBD診療連携に用いるメリット

- ID-Linkを活用することで、IBD患者の紹介・逆紹介時に診療情報を迅速かつ正確に共有できるようになり、地域医療機関と大学病院との共同診療が促進される。
- Advanced Therapy導入患者を含めた長期フォローアップの効率化や、病勢増悪時の適切な専門医療機関への相談、紹介が可能となり、IBD診療の質の向上が期待される。
- 遠方から金沢大学附属病院への受診を行わずにすむので、患者の移動負担、時間負担の軽減にもつながる。

まとめ

- IBD患者の診療連携基盤をID-Linkを用いて構築、運用する。
- 金沢大学附属病院に受診歴のない患者に関しては、閲覧専用の仮想医療機関「金沢大学附属病院IBD相談センター」を設置しID-Linkの紐付けを行う。
- IBD患者の診療の底上げ、均一化ができ診療の質の向上が期待される。